

## 別記様式（第5条関係）

## 会 議 録

会議の名称		第2回 福津市こどもの国推進協議会
開催日時		令和6年2月13日（火）午後6時00分～午後7時00分まで
開催場所		福津市役所 本館2階 大会議室
委員名		(1)出席委員 安徳尊博 西田明日香 永渕美香子 阿部 泰治 井上惣一郎 (2)欠席委員 笠置千晶 高木陽一郎
所管課職員職氏名		こども家庭部：中村部長 教育部：石津理事 子育て世代包括支援課：羽田野課長 こども課：仲野課長 子育て支援係：甲斐係長、神山主任 こどもの国推進係：竹田係長、有吉主査 学校教育課 学務係：前田主事 子ども・子育て支援事業計画事業受注候補者：株式会社ぎょうせい
会 議	議 題 (内 容)	1. 開会あいさつ 2. 協議会の運営方法について (1) 会議公開・非公開について (2) 会議録の作成について 3. 協議事項 (1) 特定教育・保育施設、特定地域型保育の利用定員の設定について (2) 「福津市第3期子ども・子育て支援事業計画」の策定予定について 4. 次回開催
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	1人
	資料の名称	資料1 特定教育・保育施設の利用定員の設定について 資料2 福津市第3期子ども子育て支援事業計画 策定スケジュール（案） 資料3 （前回調査票）第2期福津市就学前児童用調査票 資料4 （前回調査票）第2期福津市小学生児童用調査票 資料5 こどもの生活状況調査票案（小学生用） 資料6 こどもの生活状況調査票案（中学生用） 資料7 こどもの生活状況調査票案（保護者用）

会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録
	<input type="checkbox"/> 要点記録
	記録内容の確認方法 会長による確認
その他の必要事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会あいさつ  
こども家庭部長あいさつ

2 協議会の運営方法について  
会議については公開（傍聴人1名）、会議録は録音による要点記録。

3 協議事項

（1）特定教育・保育施設の利用定員の設定について

【事務局説明（石津理事）】

令和6年4月1日に新制度移行幼稚園への移行を予定している若木台幼稚園の区分ごとの利用定員の設定に関するものです。子ども子育て支援法第31条第2項の規定に基づき、利用定員を定めようとするときは、審議会の意見を聞くこととなっております。利用定員の人数につきましては、新制度未移行幼稚園の時と変更ありません。新制度移行幼稚園への移行について、特定教育・保育施設としての確認は市が行いますので、本日、ご承認いただけましたら、3月までに、特定教育・保育施設としての確認の決裁を行い、令和6年4月1日から新制度移行幼稚園へ移行する予定になっております。この件については、若木台幼稚園の在園児の保護者と、新入園児の保護者に対しては、既に園から報告済みです。以上が定員の設定についての説明です。ご審議をお願いいたします。

【質疑応答】

（安徳会長）事務局からの説明について、ご意見等ありますでしょうか。

（高木委員（事務局代弁））しらぎく幼稚園と光明の郷幼稚園の2園がすでに新制度の対象になっているという認識でよろしいですか。

（石津理事）現時点で新制度の対象となっているのは、しらぎく幼稚園と光明の郷幼稚園です。しらぎく幼稚園は令和6年度から認定こども園へ移行し、光明の郷幼稚園と承認後に若木台幼稚園、それに加えて資料には記載はありませんが、福津市立神興幼稚園も新制度の対象となります。

（阿部委員）新制度に移行した場合の良さは何でしょうか。

（石津理事）幼児教育の無償化について、現制度では、園児一人あたりに対して給付額が設定されていますが、新制度では、施設の規模、入園者数、職員数などを加味して給付額を算出します。保護者に対しては、大きな違いはありませんが、園への給付額の計算方法が変わるということです。

（阿部委員）そちらの方が良いということでしょうか。

（石津理事）若木台幼稚園で検討されて、そちらの方が良いと判断されたと思います。

（西田副会長）すでに新制度に移行している幼稚園の保護者から、負担感や困惑することなどの意見は出ていますか。

（石津理事）無償化については、大きな違いはありませんので、現時点で課題は出ていません。

（永渕委員）新制度に移行することで、職員の給与が上がることはありますか。

（石津理事）職員の配置など細かく給付額を積算するため、職員数の要件を満たせば、園に給付される金額が加算されますが、園が給付されたお金をどのように運用するか、という課題はあります。

（安徳会長）特定教育・保育施設の利用定員の設定については、承認としてよろしいでしょうか。

(反対なし)

それでは、承認とさせていただきます。

(2) 「福津市第3期子ども・子育て支援事業計画」の策定予定について

【事務局説明（竹田係長）】

福津市第3期子ども子育て支援事業計画について、目的は、5年間の計画期間における教育・保育・地域の子育て支援についての需要と供給に関するものです。教育、保育、地域の子育て支援の施策について、現状の利用状況や利用希望の需要量の見込み、そして、その供給量を確保するための内容や実施時期などを記載するものです。子ども・子育て支援法で、市町村は、支援事業の提供体制の確保、円滑な実施を目的として、計画を定めることとなっています。策定については、第2期計画が、令和2年度から令和6年度までの計画、第3期計画は、令和7年度から令和11年度までの計画となっていますので、令和5年度、令和6年度で行う予定です。特に令和5年度については、ニーズ調査、生活状況調査、二つのアンケート調査の実施案を確定するために委員の皆さまにご意見を賜りたいと思います。

次にアンケート調査の内容についてです。お配りしている調査票の種類としては、既存の子ども子育て支援事業計画に関するものと、今回新たに貧困の施策に対して整理していくためのアンケート調査で生活状況調査です。

まず、「福津市の子ども・子育て支援に関するアンケート調査ご協力のお願い」と書かれた調査票について、こちらは、既存の第2期子ども子育て支援事業計画を立てる際に使用したアンケート調査票で、今期計画を立てる際に踏襲していくことを考えています。ただし、今期計画に関する国の手引きの中で、需要量の見込みについては、実績と乖離する傾向があるため、事柄によっては、実情に応じて積算することも可能とされています。今年度は、前回調査よりも、設問をまとめたり、減らしたりする方向で、回答者の負担が少ない内容で必要なものに絞ったコンパクトな調査票を作成する予定です。実施方法については、就学前児童がいる世帯と小学生がいる世帯から無作為に抽出し、各1000通ずつ調査票を郵送する予定です。ウェブ上で回答できるようにQRコードも掲載することを検討しています。

次に子どもの生活状況調査についてです。今回お配りしているのは、国の調査票モデル、ひな型です。今回の子育て支援事業計画については、こども大綱に定められた基本方針を勘案して、貧困対策に関する事項も合わせて計画に盛り込みたいと考えています。

調査については、市内の小学5年生全員、中学2年生全員、その保護者を対象とした調査を予定しています。対象者の選定については、アンケートに回答することができる高学年で、令和6年度に調査、次年度の令和7年度からの計画となりますので、次年度も小学校に在籍する小学5年生としました。中学2年生についても、同様の理由です。実施方法は、小学生、中学生については、学校でのタブレットによる回答を検討中です。保護者については、質問票の配布とウェブ上での回答による調査を検討中で、今後、教育委員会とすり合わせを行っていきたく考えております。

設問の内容などについて、委員の皆さまからご意見をいただきたく思っています。本日、この協議会の場でも結構ですし、後日、2月中を目途に事務局にご連絡をいただければと思います。事務局でも同時進行で関係部署に意見を聴取し、素案をまとめ、3月の協議会で提示できればと思っています。その素案を基に3月の協議会で改めて意見をいただき、調整の後、年度内に確定させたいと思います。

【質疑応答】

(安徳会長) スケジュールとアンケートの内容について説明をいただきましたが、まずはスケジュールの部分で質問等ありますでしょうか。今年度でアンケートの内容を固めて、来年度の9月頃から骨子案を作成していくというスケジュールで、今回は、アンケート調査の内容をどうするかについての質疑かと思いますが、いかがでしょうか。

(永渕委員) 子どもの生活状況調査票の配布について、こどもの名前で各戸配布される予定ですか。

(竹田係長) 保護者に見られないように回答できる手法を検討中で、時間の確保等の課題はありますが、1つの案としては、学校で導入している児童用のタブレットでの回答を考えているところです。

(西田副会長) 質問事項について、中学生までは手厚いですが、それ以降の高校生、大学生への支援についての項目があまりないように思います。第2期計画もそうですが、十代後半の子ども達への支援施策が乏しいように感じます。今回のアンケートに十代後半の子ども達に関する質問事項が少ないのは、国からの指示が無いからなのか、福津市としてどのように考えていますか。もし福津市で十代後半の子ども達への支援についても考えているのであれば、アンケート項目の層を増やすことは可能でしょうか。

(甲斐係長) 3月に自治体のこども計画の策定に向けたガイドラインが国から示される予定ですので、それを受けて検討していきたいと思います。

(阿部委員) こどもの生活状況調査の内容について、どの程度変える余地がありますか。勉強のこと、生活に踏み込んだことなど多岐にわたっているように感じます。また、回答結果について、この協議会や学校へ情報がどのように提供されるのか、フィードバックはどのようになりますか。無記名とのことなので、それが妥当なのかも検討すべきだと思います。

(西田副会長) 計画策定に向けたアンケートなので、基本的にはそのために利用するものと思います。

(安徳会長) 学校に回答結果を提供することで、学校でも対応できることがあるということですね。

(阿部委員) はい。しかし、無記名であると回答結果を受けて学校でフォローすることが難しいと思いました。

(永渕委員) 例えば、学校ごと、校区ごとなどで番号を付けて調査するというのは、いかがでしょうか。大学でもアンケートを取ることはありますが、自由記述の欄に生徒の本当の悩みなどが隠れていることもあります。今回のアンケートは第3期の計画のものとは思いますが、非公開でもいいので、どの学校の回答結果かだけでも市と学校が共有できると、その他のことに活かせるのではと思います。

(竹田係長) こちらのアンケートについては、貧困対策に関する施策という枠組みのもので、現時点で、ひな型について、どの程度変更できるかをお答えすることは難しいですが、学校、教育委員会とも協議をしながら、より良いものとなるように検討していきたいと思います。

(安徳会長) 前回の調査から人口が増えて、状況が異なっていますが、調査の母数を変えることは考えていますか。また、生活を豊かにするための計画ですが、質問の内容がマイナスなものが多いように思います。初めは、明るい内容から入る方が良いのかなと思いました。こども大綱を受けての計画とのことですが、国は人口減少、少子化などへの施策について、謳っていますが、福津市は人口が増えており、逆行していると思います。こども大綱と第3期計画の繋がりや趣旨、福津市が何を目指しているのかを今一度明確にし、価値観の共有をした方が良いと思います。

(西田副会長) 趣旨によって、設問の一つ一つが変わってきますね。

(竹田係長) アンケートについては、福津市こども課のみで作成できるものではありませんので、関係部署や皆さまからいただいたご意見を考慮しながら、検討し、素案を考え、3月にご提示させていただきたいと思います。

(井上委員) 全国的にみて人口が減少傾向にある中で、福津市は増加しています。前回のアンケートからも人口が増えていますので、国の趣旨もあるとは思いますが、福津市にあったアンケートにした方が良いと思います。

(高木委員(事務局代弁)) 学校でアンケートを実施するとなると、時間の確保など運営が難しくなるため、配慮していただきたいです。また、質問の内容について、いじめや虐待など、センシティブな内容がありますが、どのようにフォローするのでしょうか。

(竹田係長) 実施方法については、教育委員会と調整しながら検討していきたいと思います。質問事項については、皆さまからご意見をいただきながら、検討していきたいと思います。

(安徳会長) 中学校としても高木委員と同じ考えということによろしいでしょうか。

(阿部委員) はい。

(西田副会長) アンケートの内容について、行政の管轄内の施設の利用状況などについての質問はありますが、地域の活動についての内容がないので、加えた方が良いでしょう。また、前回、エンゼルスポットの利用が少ないという結果だったと思いますが、どのような計画を立てれば、そのような施設の利用者数が増えるのか、といった視点で質問内容を考えるのも良いかと思いました。

(永淵委員) 中学校で定期的にアンケート調査を実施するなどの取り組みはありますか。

(阿部委員) 月に一回行っています。友人関係、いじめに関することや、家庭に関すること、大人との関係に関することなどのアンケートを取っています。

(永淵委員) 大学で学生に聞くと、中学生のとき、当時は恥ずかしくて先生や大人に相談できなかった、大学生になって初めて、話すことができたという人もいます。クラスでアンケートを取ると、誰かに知られるのではないかと心配するような生徒はいませんか。

(阿部委員) こども達の不安は懸念されるので、誰でも悩みが相談できるポストの設置や、今はいろいろな相談窓口があるので、その連絡先をこども達に共有しています。

(永淵委員) 学校でそのようなアンケートやフォローをしっかりとされているのであれば、センシティブな内容を今回のアンケートの設問にする必要はないのではないかと思います。

(安徳会長) 他に質問はありませんか。改めて質問や意見があれば、2月中にこども課に連絡をするということによろしいでしょうか。

(竹田係長) はい。

### (3) その他

(竹田係長) 次回のこどもの国推進協議会について、3月12日(火)午後6時以降を予定しておりますが、よろしいでしょうか。

(安徳会長) 委員の皆さま次回の日程については、よろしいでしょうか。

(反対なし)

(安徳会長) 最後に確認ですが、2月中に意見を集め、事務局で素案を作成し、3月の次回の協議会で、内容を確認するということによろしいでしょうか。

(竹田係長) はい。可能な限り、次回の協議会の前までに素案を作成し、事前に委員の皆さまに配付したいと考えています。

(安徳会長) その他、何かございますか。無いようですので、事務局に戻します。

(事務局) 本日は、ご審議いただきありがとうございました。次回以降については、事務局より改めて案内いたします。これで令和5年度第2回こどもの国推進協議会を終了します。